

平成 29 年度 秩父地域森林活用等創出支援事業 活動状況報告書

シカ等の食害対策の推進 (H25)

みどりの会

事業の目的・内容

地域内に小鹿野町を代表する秩父札所 32 番法性寺があり、春から初秋にかけて寺院境内は「東国 花の寺 百カ寺」花の寺として、多くの参拝客を迎え入れている。

年間途切れることのない参拝客に対して、平成 10 年度頃から地元住民を主体にした自主的団体「みどりの会」を結成して、ヤブツバキ、ミツバツツジ、山ツツジ、百日紅（サルスベリ）、秋海棠（シュウカイドウ）等の増殖・管理等を行い、境内のスギ、ヒノキの間伐や雑木等の整備を図りながら環境美化に努めた結果、会員の結束と地域内活性化の気運が高まり、さらに内容を充実させて都市住民の憩いの場づくりを推進していく。



秋海棠（シュウカイドウ）

今までの活動状況

昭和 50 年代後半から 60 年代にかけて、小鹿野町観光協会で法性寺の前に自生していた多くの山ツツジに加えてミツバツツジを植栽し、一時期草刈りなどを試みたものの、急峻な地形と岩場、働き手の高齢化、労力不足等で管理が不能となり、5～6 年間放置されたままとなっていた。

荒れ放題となった山を、見るに見かねた地元若者有志がつる切りしたのを契機として「みどりの会」結成を提案、現在の会長他数名がリーダーシップを発揮し、会員数は 36 名までに増加し、ツツジを中心とした花の寺を復活させた。



シカによる食害

平成 21 年からは、境内に自生していた秋海棠に着目し、株分け・実生など敵地と思われる町道沿いに面した、なだらかな勾配の北面傾斜の排水良好な山林を中心に増殖し環境整備に努めた。

その後、秋海棠が活着し株の増殖に伴って、成育が順調にいくかと思われた矢先、シカの食害が目立ちはじめ、植栽した周囲一面をシカ除けネットと通り道にはハリガネのネットで囲ったが効果がなく、秋海棠の増殖はおろか、シカ対策が大きな課題となってきた。

秋海棠が活着し株の増殖に伴って、成育が順調にいくかと思われた矢先、シカの食害が目立ちはじめ、植栽した周囲一面をシカ除けネットと通り道にはハリガネのネットで囲ったが効果がなく、秋海棠の増殖はおろか、シカ対策が大きな課題となってきた。

秋海棠は蓂（シュウ）酸を含み酸味があるため、イタドリ同様にシカの好物（塩分を求めている）であり、シカ対策に苦慮している状況であった。

平成 25 年に、秩父地域森林林業活性化協議会でシカ等の食害対策の推進事業を導入し、シカからの食害回避を図るための大きな構想のもと、総面積 1.26ha、防鹿ネット総延長 1,030m を施行基準に基づいて設置した。

防鹿ネット内で増殖した秋海棠は、年ごとに活着増殖しはじめ、一昨年から、まだ一部での食害被害はあるものの、年によって9月上旬前後より見頃となり、秋海棠の寺として定着しつつある。このことが評判となり、平成 29 年の開花時期にはテレビ、ラジオ、新聞にも掲載され脚光を浴び、活況を呈した。

平成 28～29 年の管理実績は、延べ稼働人員 90～100 人、主な作業は草刈り、秋海棠の補植、採取、ネット周辺の整備等である。



当事業におけるネット設置状況

これからの活動・行事

平成 28 年度は園の整備として、草刈り機 2 台、のぼり旗 50 本、通り門 3 箇所の設置を実施。平成 29 年度は、10 月より休憩所として駐車場上に東屋を新設。平成 30 年度は園内に鑑賞しやすい通路の整備、展望施設などの設置を予定している。



のぼり旗設置作業



見頃を迎えた秋海棠